

アドベンチャーガイズ

南米大陸最高峰 アコンカグア登頂

2025/2026 募集要項



旅行企画・実施 (株)アドベンチャーガイズ

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋2-9-6 東西館ビル本館43号室

Tel: 03-5215-2155 Fax: 03-3288-3211

南米大陸最高峰 アコンカグア

南米大陸最高峰アコンカグア。標高6959m。

チリ国境近くのアルゼンチン西部に位置し、チリのサンチャゴ、アルゼンチンのメンドーサがゲートとなります。山名は現地語で「岩の番人」という意味。名前の通り巨大な岩塊の山です。

7大陸の最高峰、セブンサミツの一つで、欧米人にも人気があり、世界中の登山者が集まるBCは遠征登山の雰囲気体験できます。積雪の状況にもよりますが、技術的には難しいところはなく、基本的なアイゼンワークができればチャレンジ可能な、比較的登りやすい山です。しかしながら高所順応に関しては、ほぼ7000mの標高を無酸素で登るために、慎重な高所順応の対策が必要です。また、高所で血液循環が悪い中、気温が低いために十分な凍傷対策が必要です。



2025/2026 出発日

アコンカグア登頂 22日間

2025年12月24日(水)～2026年1月14日(水) ￥1,895,000.

- 出発地: 東京
- ツアーリーダー: 東京より同行
- 最小催行人員: 6人
- 食事: 朝-18 昼-17 タ-18
- 燃油特別付加運賃(燃油サーチャージ)の目安: ￥80,000. (2025年8月時点)
- 1人部屋追加代金: ￥46,000. (メンドーサのホテル 2泊のみ)
- 利用予定航空会社: ユナイテッド、エアーカナダ、エミレーツ、カタール、カンタス、デルタ、アメリカン、日本航空、全日空、大韓航空、ラン、アルゼンチン航空

登山申請料は、別途現地にて登山申請時にお支払い下さい。USD980. (例: 2025年先行販売割引額)
* 現在、正式な金額は発表されていません。詳しくは、最終案内書送付時にご案内いたします。

登山は、その時のルート状況、天候、参加者の体調、その他の現地事情等で、結果が大きく左右されます。

アコンカグア登頂ツアーは、参加者にアコンカグア登頂をお約束するものではありません。

また、登頂できなかった場合でも、ツアー代金の減額、返金等はございません。予めご理解の上、お申込み下さい。

酸素利用 オプションプラン

アタック日に酸素ボンベを使用するオプションプランを設定いたします。

アタック時は、標高6000m付近の最終キャンプを出発して、登頂後、最終キャンプまで下山する必要があり、6000mを超えるエリアでの行動が、非常に長時間になり、かなりの負荷が体にかかります。

このアタック時の負荷を軽減するために、酸素利用のオプションプランを設定致しました。このプランは、基本的に無酸素で登頂できる基礎体力や高所経験を有する方が、あくまでもサポートとして酸素を利用して頂くプランになります。

高所経験が少なく、体力的に十分ではない、アコンカグア登頂が難しい方が、酸素利用を前提に登ることはできません。予めご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

(このような登山者は、6000mの最終キャンプに到達することができず、酸素を使う前に下山することになります。)

なお、アコンカグアの経験を活かし、ヒマラヤの8000m峰、エベレストなどにステップアップをお考えの方には、さらなる経験値のアップにはつながらないため、酸素の利用はお勧めいたしません。



オプションプラン 料金 ￥282,000.

オプションプランに含まれるもの : 酸素ボンベ、レギュレーター、マスク、最終キャンプへの酸素の運搬費用

* 現地事情等で、急遽、酸素ボンベがご用意できなかった場合は、通常通り無酸素でアタックいただく形になります。この場合は、オプションプランのご料金を全額返金致しますが、ツアー代等の返金等はございませんので予めご了承ください。

《アコンカグア(6,959m)登頂 22日間》

NO	都 市 名	時 間	交通機関	摘 要	食事
1	東京（成田・羽田）	夕 刻	航空機	空路、経由都市で航空便を乗り継ぎ、プエノスアイレスへ向かいます。【機中泊】	機食
2	経 由 都 市 プエノスアイレス メ ン ド ー サ	午 前 午 後 夕 刻	航空機 航空機	プエノスアイレス到着後、国内線でメンドーサへ向かいます。【メンドーサ泊】	機食 機食 夕食
3	メ ン ド ー サ ラ ス ・ ク エ バ ス	午 前 午 後	送迎車	入山手続きを終えた後、送迎車でラス・クエバスへ移動します。【ラス・クエバス泊】	朝食 昼食 夕食
4	ラ ス ・ ク エ バ ス レンジャーステーション コンフルエンシア	朝 夕 刻	送迎車 トレッキング	朝、馬で運ぶ荷物を預けた後、車でレンジャーステーションへ。ここよりトレッキングを開始して、コンフルエンシアへ。【3,300m/テント泊】	朝食 昼食 夕食
5	コンフルエンシア	滞 在	トレッキング	アコンカグア南壁方面を往復し、高所順応します。【3,300m/テント泊】	朝食 昼食 夕食
6	コンフルエンシア ブラサ・デ・ムーラス	朝 午 後	トレッキング	アコンカグアの登山基地となるブラサ・デ・ムーラス・ベースキャンプに入ります。【4,350m/テント泊】	朝食 昼食 夕食
7 5 18	アコンカグア峰登山	<p>《アコンカグア峰登山》 ～参考スケジュール～ ※期間中全食付き ⑦BCにて休養&トレーニング(4,350m) ⑬C1にて休養(5,560m) ⑧BC⇒キャンプカナダ(5,050m)⇒BC ⑭C1⇒C2(5,950m) ⑨BC⇒C1(5,560m) ⑮C2⇒頂上⇒C2(5,950m) ⑩C1⇒C2方面⇒C1⇒BC(4,350m) ⑯C2⇒C1⇒BC(4,350m) ⑪BCにて休養(4,350m) ⑰～⑱予備日 ⑫BC⇒C1(5,560m) ★登山スケジュールはあくまでも予定になります。★</p>			
19	ブラサ・デ・ムーラス レンジャーステーション ラ ス ・ ク エ バ ス メ ン ド ー サ	午 前 夕 刻	トレッキング 送迎車	往路をレンジャーステーションまで戻り、迎えの車でラス・クエバスを経由しメンドーサへ向かいます。【メンドーサ泊】	朝食 昼食 夕食
20	メ ン ド ー サ プエノスアイレス	午 後 夜	航空機 航空機	航空便の出発時刻まで自由行動です。送迎車で空港へ移動し、航空便を乗り継ぎ、帰国の途に着きます。【機中泊】	朝食 機食
21	経 由 都 市	午 前	航空機	経由都市で航空便を乗り継ぎます。【機中泊】	機食
22	東京（成田・羽田）	夕 刻		東京到着後、解散です。	機食

※2泊目が、機中泊やプエノスアイレス泊に変更になる場合がございます。

この場合でも、登山予定日程に変更はございません。

※南米への到着地、出発地がプエノスアイレスからチリのサンチャゴに変更になる場合がございます。

この場合、サンチャゴ～メンドーサ（ラスクエバス）間の移動は送迎車になります。

どちらの発着地でも、登山予定日程に変更はございません。

※天候、現地事情等により、日程が変更される場合がございます。予めご了承ください。

アコンカグア概要

登山シーズン

最適期は、現地の夏に当たる12月中旬～2月中旬です。夏の天気は比較的安定していますが、全般的に風が強く、強風時は晴れていても登山ができません。気象情報に注意して計画的に登山日程を決定する必要があります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○

登山ルート

基本的には、ベースキャンプとなるプラザデムーラスまでは、積雪もなく難しい登山技術が必要のない、一般的なトレッキングルートになります。

ベースキャンプより上のエリアに関しては、そのシーズンによって2つのパターンがあります。

①山頂までほとんど雪のないシーズン

(登山時まで、ほとんど降雪が無かった場合)

BC以降は、全般的に急な斜面のザレ場を登る形になります。頂上直下のグランカナレータは、富士山の砂走を登るイメージで、砂礫の中を一步進んで、半歩ぼ下がり、また一步登っていくイメージで体力が奪われます。

②上部に雪があるシーズン

そのシーズンによって雪の出現する標高は変わりますが、雪が出てきた後は滑りやすいザレ場をアイゼンを利かすことができるので快適に登れます。

特にグランカナレータは顕著に登りやすくなります。

上部に降雪があると、登山期間中でも、①のパターンから、②のパターンに急激に変化する場合があります。このため、どちらのパターンになるか、事前の予想は困難です。

登山レベル

ルート上に難しい岩稜帯を登る箇所はありません。

登山技術としては、基本的な雪稜登攀の技術が取得できており、斜度のきつくない雪稜で長時間のアイゼン歩行がスムーズにできれば問題ないでしょう。

体力的には6000mを越える高所で、1日で標高差1000mを登り、降りする必要があります。6000m以上での行動が非常に長くなり、特に山頂からの下山時に高度の影響が強くなりますので、しっかりとした基礎体力が求められます。

また、遠征登山の十分な経験も必要です。テント生活が続きます。基本的にはスタッフが手伝いますが、テントの設営、食事の準備、雪からの水を作る等、ある程度、自分でできる必要があります。

防寒対策

上部はマイナス20度以下になることが珍しくありません。

風が強い時の体感温度はマイナス30度以下になることもあります。高所の影響で体の血流が悪くなっているために、指先など体の末端の凍傷のリスクが高くなります。

日本の雪山(標高2000～3000mレベル)と気温が一緒でも、状況が全く違います。しっかりとした防寒の装備が必要です。

キャンプ地(山小屋) 標高

登山口	: 2, 800m
コンフルエンシア	: 3, 300m (標高差 約500m)
BC (プラザデムーラス)	: 4, 350m (標高差 約1050m)
C1 (ニド・デ・コンドレス)	: 5, 560m (標高差 約1210m)
C2 (ベルリン/コレラ)	: 5, 950m (標高差 約400m)
山 頂	: 6, 959m (標高差 約1000m)

【登山概要】

メンドーサの町で入山手続きを行います。プエント・デル・インカのレンジャーステーションより登山を開始。草原のルートを経由してコンフルエンシア・キャンプへ。最初の順応活動を行い、体を慣らしてから、BCとなる、標高4350mのプラザ・デ・ムーラスに入ります。

BCでも高所順応として周辺のトレッキングを行い、数日の休養後にC1、C2と進みます。

C2が最終キャンプとなり、ここからアタック開始。6000m以上での標高差1, 000mの登りと下りをする長丁場です。特にグランカナレータのザレ場は砂場のようになり、体力を使う場面です。

また、その年によってルート上に雪がある場合と無い場合があります。雪がある方がグランカナレータなどザレ場の登りにアイゼンが使える体力的に楽に登れます。

【ルート概要】 * 距離、標高差、時間は目安です。

レンジャーステーション ～ コンフルエンシア

距離： 8km 登り： 450m 4時間

前半は斜度のあまりない草原の中の林道を登ります。吊り橋を越えると後半へ。川沿いの中斜度のルートを登ります。平坦な緑の草原につくとコンフルエンシアキャンプです。常設のテント村が広がります。

コンフルエンシア～南壁展望台(4000m地点)～コンフルエンシア

距離：10km 登り・下り：700m 6時間

高所順応登山で、アコンカグア南壁のキャンプフランス方面にトレッキングします。予定では標高4000m地点まで歩きます。

コンフルエンシア ～ ピエドラ・イバニェス ～ プラザ・デ・ムーラス

距離：22km 登り：1050m 10時間

この日の行程は22kmの長丁場。前半は10kmの斜度のない広大なU字溪谷の谷底を進みます。ピエドラ・イバニェスから後半へ。中斜度のザレ場をアップダウンを繰り返しながら高度を上げます。キャンプ前にモレーンを越え、急斜面を登りきるとベースキャンプとなる、プラザ・デ・ムーラスへ。

プラザ・デ・ムーラス～C1(ニド・コンドレス)

距離： 3km 登り：1200m 6時間

ピエドラ・コンウェイの岩塔、キャンプ・カナダを経由して、キャンプ・アラスカまでザレ場のジグザグのルートを急登します。キャンプ・アラスカを越えると斜度が緩くなり広大な斜面の登りです。なるべく斜度が出ないように大回りをしながら、ゆっくりと登ると、レンジャーも常駐する広大なキャンプ地、C1となるニド・コンドレスに到着です。

C1(ニド・コンドレス)～C2(コレラまたはベルリン)

距離： 2km 登り： 400m 3時間

東側の急斜面のジグザグのルートを登ります。小さな小屋があるキャンプ・ベルリンへ。ベルリンより北東方面にトラバースして小さなコルを越えると、キャンプ・コレラです。その時の状況でベルリンかコレラのキャンプを選びます。

C2(コレラまたはベルリン)～アコンカグア山頂

距離： 3km 登り：1000m 10時間

ザレ場のジグザグの急斜面を登ると、壊れた昔の小屋が残るインディペンデンシア。ここから大トラバースへ。少しずつ高度を上げながらグランカナレータ(大クールワール)の入口へ。斜度が急になり上部が望めればグランカナレータに入ります。ここからグズグズのガレ場の急登を登ります。雪が付いているときは、カナレータの右サイドのしっかり雪の付いているところを登ると比較的登りやすい。視界が開けアコンカグアの南峰を南壁の雪壁を眼下に見るようになると山頂はすぐそこ。最後の小さな岩場を登りきると、南米大陸の最高地点に到着です。

下山ルート

アコンカグア山頂～インディペンデンシア～C2(コレラまたはベルリン)

距離：3km 下り：1000m 5時間

C2(コレラまたはベルリン)～C1(ニド・コンドレス)

距離：2km 下り： 400m 1時間

C1(ニド・コンドレス)～プラザ・デ・ムーラス

距離：3km 下り：1200m 2時間

プラザ・デ・ムーラス～コンフルエンシア

距離：22km 下り：1000m 6時間

コンフルエンシア～レンジャーステーション

距離：8km 下り： 450m 2時間

【荷物の運搬】

レンジャーステーション～コンフルエンシア～プラザ・デ・ムーラス

ムーラ(ろば)にて、共同装備、トレッキングに必要な個人装備を運搬します。

プラザ・デ・ムーラス～C1～C2

BCよりC1、C2へのテント、食料、燃料等の共同装備の荷揚げは、すべてポーターが行います。

なお、個人装備をポーターに運んでもらう場合は、別途ポーター代をお支払頂くことによって可能です。そのため、参加者は水、行動食、雨具、若干の個人装備のみを持つての行動が可能となります。

【登山中の食事】

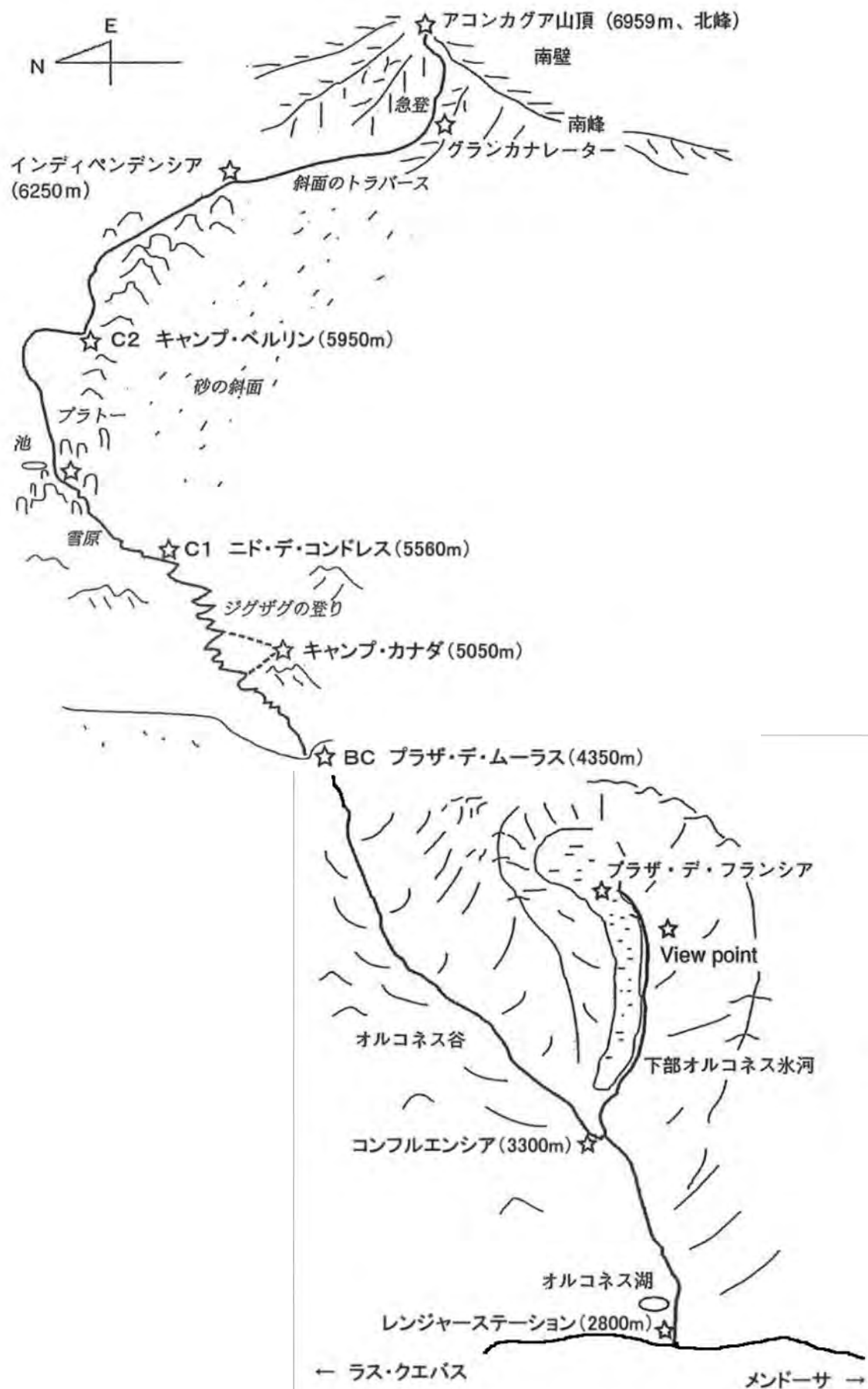
コンフルエンシアキャンプ、プラザ・デ・ムーラスのキャンプでは、キッチンスタッフが料理を作り、提供いたします。肉料理+ポテト、パスタ等の西洋料理が中心です。

C1、C2キャンプの上部キャンプでは、ジフィース米、麺類等、お湯を沸かすだけで作ることができる日本食を弊社が用意致します。(旅行代金に含まれております。)

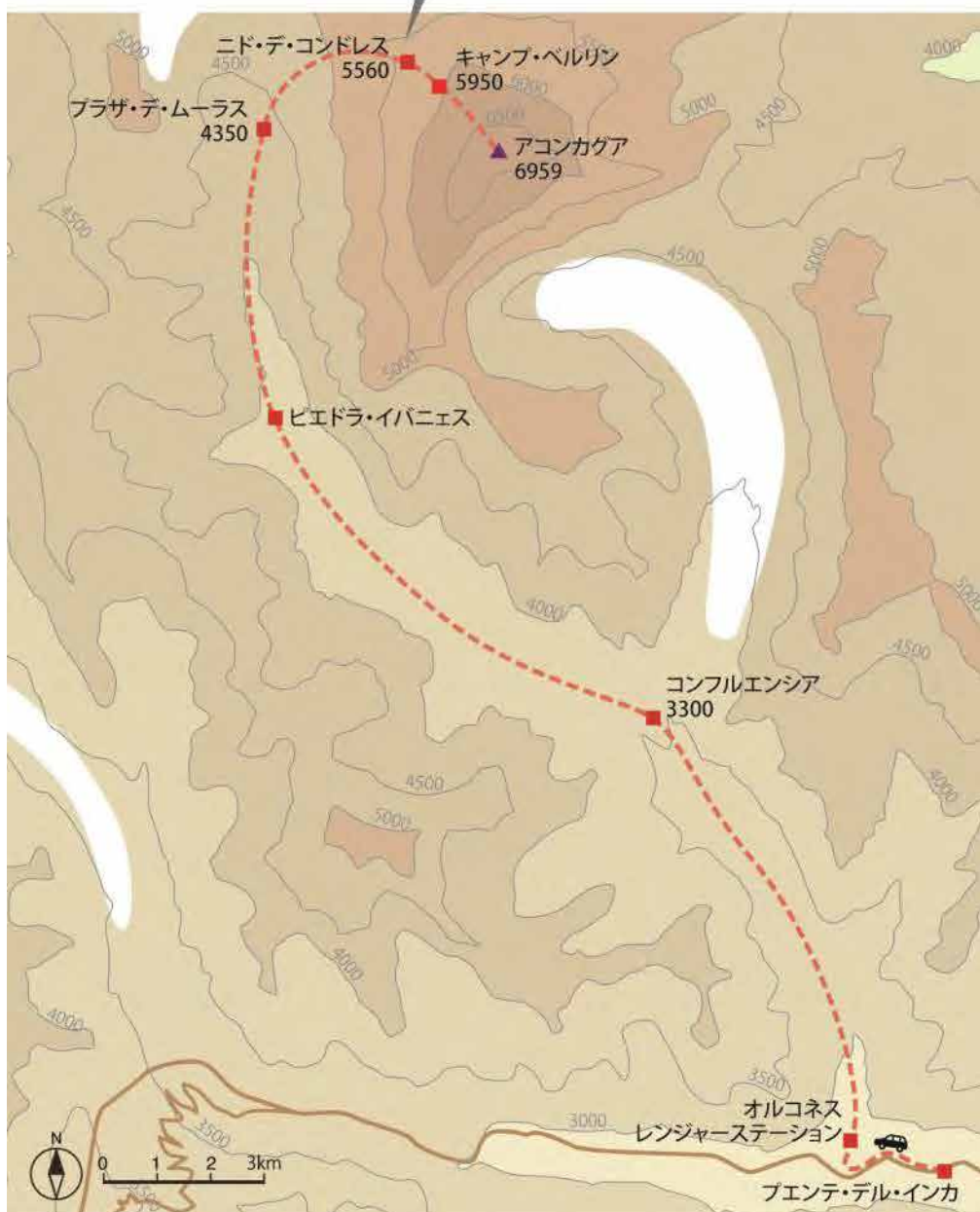
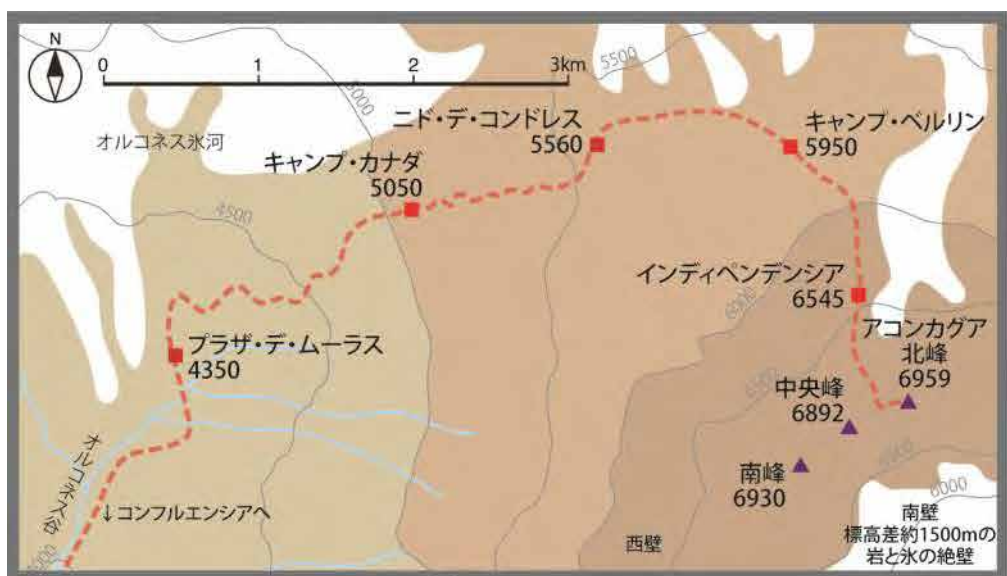
アコンカグア広域概念図



アコンカグア登山概念図



アコンカグア登山地図



アコンカグア行程表・概念図



アコンカグア 参考装備表

【靴・足元】

NO	品 名	数 量	備 考
1	高所用登山靴	1足	○ 高所登山用の二重構造の登山靴(ダブルブーツ)。インナーブーツが完全に取外れるタイプのもの。高所では足もむくむため、そのことも考慮に入れてサイズを選ぶこと。 例) スポルティバ: G2 EVO、G-SUMMIT スカルパ: ファントム6000 ゼンバラン: デナリエVO RR など
2	トレッキングシューズ	1足	○ 3シーズン用登山靴やトレッキングシューズ等、主にベースキャンプまでの行程で使用。 ※ねん挫防止のためにもミドルカットまたはハイカットのものがおすすめです。
3	運動靴又は普段履き	1足	○ 出発時、機内、都市滞在中などに使用。 トレッキングシューズで兼用も可能です。 ※メンドーサまたはラス・クエパスのホテルにデポします。
4	サンダル	1足	○ 都市滞在中の他、ベースキャンプでもあるとより快適です。 ★怪我予防のためにも、ビーチサンダルではなく、つま先の隠れるタイプのもの。 例) クロックス キーン などのソックスのまま履きやすいつま先が覆われているタイプのもの
5	クランポン(アイゼン)	1組	○ アイゼン。10～12本爪のフロントポイントのあるフルアイゼン。 ダブルブーツにフィットするサイズのもの。着脱が簡単なワンタッチ式やセミワンタッチ式がおすすめです。かつ、ストラップは長めのものがおすすめです。 ※クランポンケースも忘れずにお持ち下さい。 例) CAMP: アルピニスト ブラックダイヤモンド: Serac Crampons など
6	ゲイター(スパッツ)	1組	○ スパッツ。最冬期用で耐久性のしっかりしたもの。 ※ダブルブーツの構造、オーバーパンツの形状などによっては不要な場合もございます。 例) モンベル: アルパインスパッツ バイネ: エクスベディションスパッツ など
7	テントシューズ	1足	○ ロングタイプ。最冬期用で耐久性のしっかりしたもの。テント泊内で快適に過ごすため。 例) ヘリテッジ: ダウンテントシューズ モンベル: ダウンフットウォーマー など

【ウェア・衣類】

NO	品 名	数 量	備 考
1	下着類	適数	○ 最低4～5セット。素材はポリエステル系の合成繊維などで、速乾性に優れているもの。綿製品は不可。 例) パタゴニア アイスプレーカー アークテリクス ワコール など
2	薄手靴下～中厚靴下	適数	○ ベースキャンプまでのキャラバン、ベースキャンプ滞在、ハイキャンプへの順応時用として、薄手～中厚程度のウールやポリエステル系などの靴下を最低4～5セットはお持ち頂くことをおすすめ致します。綿製品は不可。
3	厚手靴下	適数	○ エクスベディション用の厚手のウールや合成繊維のバイル織の靴下。古くなると保温性やクッション性が失われるため、できるだけ新しいものをご用意下さい。登頂アタック時用と予備など最低でも2セットはお持ち頂くことをおすすめ致します。綿製品は不可。
4	薄手のベースレイヤー(上下)	適数	○ 上下2～3セット。素材はポリエステル系の合成繊維、またはウールなどで、吸湿吸水性、拡散発散性、速乾性に優れているもの。綿製品は不可。 例) パタゴニア: キャブリーン ライトウェイト ミレー: ドライナミックメッシュ など
5	厚手のベースレイヤー(上下)	適数	○ 上下1セット。素材はポリエステル系の合成繊維、またはウール。寒いときに薄手のベースレイヤーの上に重ねて着用できるもので、首元はクルーネックではなく、温度調節ができるハーフジッパーがおすすめです。綿製品は不可。 例) パタゴニア: キャブリーン ミッドウェイト ボーラテック 100 など
6	ミッドレイヤー(上下)	適数	○ ウール、ポリエステルなどの中間着。フード付きのものはバラクラバの代わりにもあり便利。中厚程度のフリースジャケットやフリースパンツ。 例) パタゴニア: R2 ボーラテック 200～300 など
7	インサレーションレイヤー(上下)	適数	○ 中間着として使用できるインナーダウンジャケット&パンツ、ソフトシェルジャケット&パンツなど。 例) コロンビア: ウェストリッジ ダウンジャケット パタゴニア: ナノバフ、ナノエア、ウィンドシールド など
8	ハードシェル(上下)	1組	○ 両具兼用となるオールシーズン用のジャケットとパンツ。"GORE-TEX"に代表される防水透湿素材を使用した3レイヤーのものが望ましい。インサレーションレイヤーなどの上から着用できるサイズのもので、パンツはフルサイドジッパー仕様のもので温度調節や脱ぎ着が容易なため便利です。
9	アウターダウンジャケット & アウターダウンパンツ	1組	○ アタック時に着用する厚手のダウンジャケット&ダウンパンツ。インサレーションレイヤーなどの上から着用できるサイズのもので、パンツはフルサイドジッパーが望ましいです。 例) ノースフェイス: ヒマラヤンバーカ マウンテンハードウェア: アブソルートゼロパーカ マウンテンエキップメント: クラウドデュベなど

【ウェア・衣類】

NO	品 名	数 量	備 考
10	ライナーグローブ	適数	○ 雪山用グローブの内側で使用する薄地のメリノウール素材のグローブや、晴天時のトレッキング中に使用する薄手のグローブなど、厚さを変えて複数あるとより便利です。
11	雪山用防寒グローブ	適数	○ 防水性、保温性に優れた5本指や3本指の雪山登山用、スキー用防寒グローブなど。 ★より幅広い気温帯に対応できるよう、厚さを変えたグローブを最低2セットはご用意頂くことをおすすめいたします。 例) スワニー: アルパインクエスト5フィンガー など
12	遠征用防寒ミトン	1組	○ ダウンまたは化学繊維の中綿がしっかり封入された、防水性、保温性に優れた高所登山用のダウンミトングローブ。 例) スワニー: アルパインクエストミトン ヘリテッジ: エクスベディションダウンミトン ブラックダイヤモンド: アブソルートミット マウンテンハードウェア: アブソルートゼロミット ノースフェイス: インフェルノダウンミット など

【頭・目元など】

NO	品 名	数 量	備 考
1	サングラス	2個	○ 顔の大きさにあったサイズで、横風や横からの紫外線も防ぐつくりのもの。 ★破損や紛失に備え、2つお持ち頂くと安心です。
2	ゴーグル	1個	○ 悪天候時に使用。最低限、レンズはダブルレンズである必要があります。 ※登山時の使用となるため、SWANS(スワンズ)のファン付きゴーグルや、面発熱レンズゴーグルなどがおすすめです。
3	ヘッドランプ	2個	○ ヘルメットの上から装着できる、200ルーメン以上のLEDヘッドライト。 ★故障に備え、2つはご用意頂くと安心です。 ★予備の電池やモバイルバッテリーなども必要。
4	ヘルメット	1個	○ 山岳登攀用の軽量なヘルメット。 バラクラバやニット帽など防寒具を装着した状態でも使用できる大きさのもの。
5	日除け用ハット	1個	○ 日除け用のつばの付いたハットやキャップ。
6	ニットキャップ	適数	○ 低温時に使用する耳まで隠れるもの。高所帽も可能。
7	Buff、バンダナ	適数	○ 日焼け予防にHigh UV Protection効果を備えたものもおすすめ。
8	バラクラバ	1個	○ 目出帽。薄手のものでヘルメット着用が可能なもの。Buffを複数枚使用して代用も可能。

【登山用具】

NO	品 名	数 量	備 考
1	アイスクラス	1個	○ 軽量で長すぎないピッケル。グリップがゴムのは重く、雪に突き刺しづらいので避ける。目安としては、身長170cm以下の人は50～60cm、170～185cmの人は60～70cmぐらいのもの。※高所ではリーシュを付けることが望ましい。 例) CAMP コルサナノテク、コルサアルバイン PETZL サミット など
2	トレッキングポール	1組	○ 登山用ストック。3段階折りたたみ式、または、伸縮式のもの。 ※スノーバスケケットもお持ち頂くと安心です。 例) LEKI マイクロバノオカーボン AS、マカルーライト など

【キャンプ用具、その他】

NO	品 名	数 量	備 考
1	大型ダッフルバッグ (80～120L程度)	1個	○ 80～120L程度の遠征用大型ダッフルバッグが1つは必ず必要です。 ★現地までスーツケースで移動の場合、現地にてエクスぺディション用大型ダッフルバッグに荷物を入れ替えた後、登山中に不要となる荷物をまとめてスーツケースに詰め、メンドーサまたはラ・ス・クエバスのホテルにデポすることも可能です。 ★ベースキャンプ以降に使用する登山道具などが全て納まる容量のもの。 ★登山口からベースキャンプへ直送となります。 ★航空会社規定の手荷物サイズ以内に収まるようにして下さい。 ★モンベル エクスぺディションダッフルは、4本のコンプレッションベルトが付いており、荷物サイズを容易に調整ができとても便利です。

【キャンプ用具、その他】

NO	品 名	数 量	備 考
2	中型ダッフルバッグ (60～80L程度)	1個	○ 最初のキャンプ地であるコンフルエンシア滞在中に必要な、スリーピングバッグ、スリーピングマット、防寒着、着替えなどの荷物が全て納まる容量のもの。 ★大型ダッフルとは別に登山口からコンフルエンシアへ送る荷物用に使用します。
3	中型バックパック (40～50L程度)	1個	○ 行動中ご自身で背負うバックパック。 水、行動食、雨具、防寒着などの他、ベースキャンプから上部キャンプへ上がる行程の際には、スリーピングバッグ、スリーピングマットなども全て納めて頂く必要があります。 ※マットレスなどが外部に取付けられるタイプのものが望ましいです。
4	スタッフバッグ (30～50L程度)	適数	○ 上部キャンプへの荷上げをポーターに依頼される際には、荷上げを依頼される全ての荷物を1つの大きなスタッフバッグなどの袋に納めて頂く必要があります。 その他、登山中にメンドーサまたはラ・ス・クエバスのホテルに預けておかれる荷物が少ない場合は、スタッフバッグでお預けになるのもひとつです。また、テント泊時に、ご自身の荷物を全てまとめて収納でき便利です。
5	スリーピングバッグ	1個	○ シュラフ。マイナス20℃まで耐えられる極地エクスぺディション用寝袋。コンプレッションバッグがあるとコンパクトになります。就寝時には、凍らせたくないお湯を入れたナルゲンボトルや、乾かしたいインナー類、靴下なども入れ込むため、あまりびったりしたサイズだと窮屈になります。 例) モンベル: シームレス ダウンハガー800 EXP. など
6	インナーシュラフ	1個	△ シルク製などのシュラフ用インナーシートをご持参頂くとより快適でおすすめです。
7	スリーピングバッグカバー	1個	○ "GORE-TEX"に代表される防水透湿素材のもの。大きさに余裕のあるもの。 スリーピングバッグの対応温度によってはご用意頂いたほうが安心です。
8	スリーピングパッド (エアーマットレス)	1個	○ 耐久性がありバクなどにも強く、かつ、断熱性にも優れた軽量なエアーマット。 ※念のため修理キットもお持ち頂くことをおすすめいたします。 例) THERM-A-REST: ネオエアーマット NXT、プロライトプラス など
9	スリーピングパッド (ウレタンマットレス)	1個	○ 身長をカバーする長さの断熱性に優れたウレタンマット。エアーマットレスと重ねて使用します。 例) THERM-A-REST: Zライトソル など

10	ウォーターボトル	適数	○	容量2L程度のハイドレーションを1つはご用意頂くことを強くおすすめします。 その他、ボトルに関しては、ボトルの口が大きいナルゲンボトルが便利です。 ★少なくとも合計して2L以上の容量分のナルゲンボトルをご用意頂くのが望ましいです。 ※保温ケースもあわせてご準備下さい。 ※容量1Lのナルゲンボトルの他に、ハイドレーションや容量500mLのナルゲンボトルをご用意頂くと、行動中にバックパックを降ろさず、すぐに水分補給が出来るためおすすめです。
11	サーモボトル	適数	○	行動中の他、上部キャンプ滞在中にも使用するため、容量1L程度の大容量のものを最低1個、その他に0.5L程度の容量のものもあわせてあるとより便利です。
12	ビーボトル	1個	○	尿瓶。1～1.5Lくらいの容量で、口の広いもの。しるしを付けて水用の水筒とはっきり見分けがつくようにしておくこと。ナルゲンボトルなども可。 例)nalgen:通常のナルゲンボトルの他、フォールディングカンティーンがおすすめ
13	行動食&ドリンク	適量	○	アタック時以外の行動食などは現地で用意しているため、アタック時用の行動食やエナジージェル、粉末ドリンクなどのみをご持参下さい。 ★日本での山行時など、いつも好んで使用されている行動食、エナジージェル、ドリンクなどを、アタック日分のみの適量をご用意、ご持参下さい。 ★高所では固形物よりジェル状、ゼリー状のものが摂取しやすくおすすめです。
14	上部キャンプでのお食事	適量	△	アルファ米やスープなどお湯を注ぐだけで作れるものを隊装備として用意しているため、特別お好みものなどがありましたら、最小限の量のみお持ちください。
15	嗜好品	適量	△	高所の影響で食欲が減退することもあるので、日本で食べ慣れた、お好みのお菓子類などをお持ち頂くこともおすすめです。
16	医薬品	適量	○	普段使い慣れた、頭痛薬、胃腸薬、整腸剤、風邪薬など。 ★常用薬がある場合は、念の為、2週間分ほど余分にお持ち下さい。
17	カップ & カトラリー 類	適数	○	上部キャンプでの食事の際には、各自でご持参頂いた少し深さのあるカップ(スープなどが入るサイズのもの)、コップ(ドリンク用)、スプーン、フォーク、お箸などを使用して頂く必要がございます。 ★高所はとても冷えるため、金属製ではなくプラスチック製のものがおすすめです。
18	日焼け止め	適量	○	SPF50またはそれ以上のものがおすすめです。 ※日焼け止めは、6ヶ月以上経過すると効果が半減してしまう場合もあるのでご注意ください。
19	リップクリーム	適量	○	SPF20/PA++以上のものがおすすめです。

【 キャンプ用具、その他 】

NO	品 名	数 量	備 考
20	マスク	適数	○ 登山口～上部キャンプの区間では、天候によっては砂埃が激しく舞うため、そのような場合の防塵対策のため。また、ひどく乾燥している際の喉の乾燥予防のため。 ※使い捨てタイプが便利でおすすめです。
21	医薬品	適量	○ 普段飲み慣れている、頭痛薬、胃腸薬、整腸剤、風邪薬など。 ★常用薬がある場合は、念の為、2週間分ほどは余分にお持ち下さい。
22	トイレペーパーなど	適量	○ 日本のものが優れているため、1ロールはお持ち頂くことをおすすめ致します。
23	トイレ用品	1個	△ 日本で普段ウォシュレットを使用されている方は、「花王 サニーナスプレー」などをお持ち頂くと、より快適なテント泊滞在となりおすすめです。
24	ジップロックや新聞紙など	適量	○ 上部キャンプでの大便を入れる大型のものを複数枚。また新聞紙もあると便利です。
25	ポケットティッシュ	適数	△ トイレペーパーでの代用も可能ですが、町滞在時に2、3個お持ち頂くと便利です。
26	ウェットティッシュ	適量	△ アルコール除菌タイプのもの、ノンアルコールタイプのもの両方があると便利です。
27	洗面用具	適数	○ 基本的なもの。歯ブラシ、歯磨き粉、タオルなど。
28	ジップロック	適数	△ テント内などでご自身が出したゴミなどを快適にまとめるためにもあると便利です。
29	モバイルバッテリー	1個	△ 携帯端末、デジタルカメラなどのリチウムイオンバッテリーは、低温下でのバッテリー消費がとてもしばいいため、モバイルバッテリーなどもお持ち頂くと便利です。
30	キャンドルや文庫本	適数	△ 悪天候時などの停電中の時間つぶし用に。 ※軽量で電池の持ちも良く、沢山の量を保存できるためキャンドルは便利です。
31	筆記用具	適数	○ 鉛筆、メモ帳など。(ボールペンは高所ではインクの出が悪くなる場合がございます)
32	旅行用衣類	適数	○ 現地までのご移動時、また登山の前後にメンドーサの街で着る衣類など。

○：必要装備品 △：推奨装備品(あると便利です)

※ 上記参考装備表はあくまでも、通常想定し得る悪天候、悪条件までを想定した参考装備表であり、絶対的なものではありません。上記参考装備表のリストを参考に、更に厳しい条件にも対応できるよう、各自で工夫し、ご自身に合った装備をご準備下さい。

【 想定気温 】

エリア	標高	想定気温	想定体感気温
メンドーサ	(標高 約800m) :	+11℃ ~ +30℃	
ラス・クエバス	(標高 3,180m) :	+4℃ ~ +10℃	→ +1℃ ~ +7℃
コンフルエンシア	(標高 3,300m) :	+4℃ ~ +10℃	→ +1℃ ~ +7℃
BC	(標高 4,350m) :	-6℃ ~ +1℃	→ -15℃ ~ -4℃
キャンプ・カナダ	(標高 5,050m) :	-12℃ ~ -6℃	→ -24℃ ~ -14℃
C1	(標高 5,560m) :	-16℃ ~ -10℃	→ -30℃ ~ -20℃
C2	(標高 5,950m) :	-20℃ ~ -14℃	→ -35℃ ~ -24℃
アコンカグア	(標高 6,959m) :	-28℃ ~ -22℃	→ -45℃ ~ -34℃

※ 上記想定気温は現在の気温をもとに作成いたしております。あくまでも参考気温としてご参照下さい。

想定体感気温は風も考慮に入れた体感気温です。強風時には更に体感気温が下がる場合がございます。



レンジャーステーションから登山開始



キャンプでの夕食



コンフルエンシアへ。ムーラで荷物を運ぶ



コンフルエンシアからプラザ・デ・ムーラスへ



コンフルエンシアキャンプ



プラザ・デ・ムーラスへの最後の登り



ダイニングテントで休憩



プラザ・デ・ムーラス



プラザ・デ・ムーラスからアコンカグア西壁



インデペンデンシア(旧キャンプ)



ペニテンテスの中をプラザ・デ・ムーラスから上部へ。



グラントラバースを望む



C1: ニド・コンドレス



山頂への最後の登り



C2: コレラキャンプ



アコンカグア山頂

6000m峰シリーズご参加にあたって (お申込み前に必ずお読み下さい)

「6000m峰シリーズ」はヒマラヤ、アンデスの6000m峰を対象に行う登山ツアーです。一般的に海外の高所登山は、高所であると共に雪稜、雪壁、岩稜等を登攀用具を使用しながら登るため、十分な技術、体力、経験が必要な遠征登山となります。しかしながら、ガイドやツアーリーダーが同行することによって、ルート設定、状況判断、安全管理などの難しい部分をサポートすることによって、夏の北アルプス縦走等を中心に活動している一般登山者でも、雪上訓練などいくつかの経験を積んで頂ければ参加が可能レベルとなっております。一般的な6000m峰シリーズの参加目安となるレベルは以下となります。ご不明な点は、スタッフにご相談下さい。また、スキルアップのための講習会も用意しております。

登山技術 : セカンドで簡単な雪稜、岩稜を登る技術、装備の知識、テントでの生活経験等
体力レベル : 国内で1日に1000m位の標高差を登る事ができる体力。

6000m峰シリーズは、参加者に登頂をお約束するものではありませんので、予めご理解の上、お申込み下さい。

注意事項

1. 参加の技術、体力レベル

それぞれのコースには、ツアー参加に必要な登山技術レベル、体力の目安を例示しています。参加希望コースに必要な技術、体力があるか、ご自身の責任で判断してお申し込み下さい。(技術レベルはその時の状況で異なりますが、一般的な気象状況の元でのレベルで例示しています)

2. ツアーリーダー

アコンカグア登頂シリーズは、ツアーリーダー1名に対して参加者10名限定です。参加者が11名以上になった場合はツアーリーダーが2名同行します。

(2名同行する場合は、2人目のツアーリーダーは現地の登山活動部分のみに同行する場合もございます。)

3. 高所への対応

全てのコースに4000m以上の宿泊が含まれます。ツアー中、各自高度の影響が必ずでできます。十分な高度順応のために最適と思われる日程を組み、携帯用加圧バック等の高所登山用の装備を用意して、登山に望みます。また、ツアーリーダーが効率良く高度順応出来るよう、健康管理も含め、的確にアドバイス致します。

4. キャンプに関して

上部キャンプや山小屋への個人装備の荷上げは、原則的にお客様ご自身で行っていただきます。また、コースによっては上部キャンプや山小屋の荷上げに、ポーター等の手配ができない場合がございます。その場合は、個人装備以外にもテント、炊事用具、燃料、登攀用等の共同装備、食料等を参加者に分担して荷上げていただきます。また、上部キャンプの設営は、原則的にメンバー全員で行います。テントの設営方法はツアーリーダーがご案内します。設営場所は登山ガイドまたはツアーリーダーが指定します。

5. 山岳ガイドに関して

一部のコースを除き、現地人登山ガイドと、日本語のツアーリーダーが同行いたします。ツアーリーダーは高所登山経験が豊富な者を選任いたします。現地人山岳ガイドは原則的に日本語は話せませんので、英語または英語の通訳を伴っての会話となりますが、登山前の打合せ等の重要な事項はツアーリーダーが通訳致しますので言葉の不安はございません。一部の地域では、ヨーロッパアルプスのように国際的な技術水準をもつ登山ガイドが手配出来ない場合も有ります。この場合、日本から山岳ガイドの資格を持つツアーリーダーが同行して山岳ガイドを兼務してご案内いたします。

6. 登山中の判断に関して

ルートの決定、日程の調整、パーティーの編成、登山の中止など登山中の全ての判断は山岳ガイドおよびツアーリーダーが参加者の安全を第一に考え決定致します。この決定にはいかなる事由があろうと必ず従って頂きます。予め、ご了承下さい。

7. 登山中止に関して

山岳ガイドおよびツアーリーダーはお客様の安全を第一に考えながら登山活動を行います。天候、ルートの状況、ご参加いただいた方の体調によっては、やむを得ず登山活

動を中止する場合もございます。予めご了承下さい。

また、この決定は山岳ガイドまたはツアーリーダーが行いかなる事由があろうと、必ず従って頂きます。また、登山が中止された場合、いかなる事由であれツアー代金の変更、返金はございません。予めご了承下さい。

以下に登山を中止する場合の対応を例示致します。

* 悪天候で登山を中止した場合。

可能な限り予備日の範囲内で登山活動を継続します。

* ルートの状況により登山を中止した場合。

既にBCを出発してから中止に関しては登山は終了したものとみなします。また、出発前に登山が困難と判断された場合は可能な限り登山ルートの変更、または、他の山の登山に振替させて頂きます。

* 交通機関、宿泊施設に支障がでた場合。

登山予備日を使用して、可能な限りアタック態勢を整えるよう最大限努めますが、不可能な場合は登山ルートの変更、または他の山の登山に変更させて頂きます。

* 登山技術が不十分で登山が出来ないと判断された場合

安全に登山を継続することができないと判断された時点で下山します。その場合、全体のパーティー構成が変更される場合があります。

* 登高ペースが遅い場合

余裕をもって安全地帯まで下山するにはペースが遅いと判断された段階で下山を開始いたします。その場合、全体のパーティー構成が変更される場合があります

* 登山装備に支障があった場合。

装備に支障があった場合、その参加者の登山を中止致します。装備表を良くご覧になり準備してください。(新しいアイゼン等は事前に実際に装着して装着可能か確認して下さい。)
装備について不明な点がありましたらお問い合わせ下さい。また現地では登山装備のレンタルは出来ません。

8. 緊急時の対策

このシリーズは雪上、雪稜、岩稜の活動が含まれること、長い時間の高所で滞在が必要なため、一般登山よりリスクが高くなります。またこのツアーで訪れる地域は一般的には秘境、辺境と呼ばれる地域です。可能な限りツアーリーダーや現地スタッフは無線機等での連絡方法を確保して、緊急時に備えますが、ヨーロッパアルプス等に比べて、必ずしも十分な救助体制が確立されているとは限りません。参加者はその点を充分にご理解の上、無理のない行動、安全な登山を心がけて下さい。また、6000M峰シリーズに参加されるお客様は弊社のご案内する山岳保険(海外旅行傷害保険の「運動危険等担保割増」)にご加入頂くことがツアー参加条件となっておりますのでご注意下さい。

9. 提出書類

下記の書類を出発までにご提出頂きます。

1. 旅行申込書

2. 山岳保険申込書(同等の保険に加入済みの場合はその証券等のコピー)

3. 山歴書・特殊ツアー参加の約定書

4. その他、渡航手続きの書類

お申し込みから出発まで

- お申込 お電話・FAX／メール等でお申し込み下さい。
- 書類送付 弊社より申込書、保険等の申込書類、ビザ申請書等の渡航手続の書類をお送り致します。
- 書類提出 手続書類に必要事項を記入の上、ご返送下さい。
- 申込金 銀行振り込み等で申込金¥50,000.00をお支払い下さい。
- 渡航手続 ビザ等が必要な場合、渡航手続を進めます
- 残金 出発の1ヶ月前を目処に残金のご請求書をお送り致します。
- 出発説明会 出発の10日前頃にツアーリーダーを中心に参加者が集まり説明会を開催します。
- 出発 体調を整えて、いざ出発です

「空港税・航空保険料・燃油付加運賃について」

このパンフレットに提示されている旅行代金には、航空会社より請求される、空港税、航空保険料、燃油サーチャージが含まれておりません。また、各コースに明示しております燃油付加運賃は、パンフレット作成時点での目安です。これらの諸費用は、航空券を発券する際に、その時点での為替レート、燃料費用に合せ計算されたものが、航空会社より請求されます。弊社では、出発1ヶ月前を目処にお送りする、残金のご請求書で、上記諸費用をご請求させて頂きましますので、予めご了承下さい。

お申込に際してのご案内

地方発着のご案内

ツアーは東京発着です。大阪など地方発着がご希望の場合は、別途、国内線等の手配が必要になりますが、割引運賃が適用になりますのでお問合せ下さい。国内線等の手配は、ツアーの航空会社、航空便が決定してからの手配開始となります。(出発の3週間前頃)
なお、お申し出がない場合は東京発着のご参加となります。

ビジネスクラスのご利用

追加料金でビジネスクラスを利用することができます。お問合せ下さい。

一人部屋・相部屋について

ホテルの宿泊は2名1部屋が原則です。1名や奇数名でご参加の場合は一人部屋か男女別相部屋の利用になります。一人部屋利用は、別途、追加料金が必要です。相部屋利用は追加料金は必要ありません。また、ロッジ・テントは男女一緒に相部屋利用になります。

ビザの取得手続き

チリ、アルゼンチンは、入国に査証(ビザ)は不要です。

健康診断書の提出

4000m以上の宿泊を含むツアーでは、過去一年以内に受けられた健康診断書の提出をお願いしています。弊社指定のフォームがございますのでその内容に合わせた健康診断をお受けください。

ご旅行条件(要旨)

*ご契約の際は、必ず旅行条件書(全文)をお受け取り頂き、事前に内容をご確認の上、お申し込み下さい。

■募集型企画旅行契約:この旅行は(株)アドベンチャーガイド(以下「当社」という)が企画・実施する旅行であり、お客様は当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」という)を締結することになります。また、旅行条件は、別途お渡しする旅行条件書(全文)、出発前にお渡しする最終案内書と称する確定書面及び当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。

■旅行のお申込み及び契約成立時期:所定の申込書に所定の事項を記入し、下記の申込金を添えてお申込み下さい。電話、郵便ファクシミリその他の通信手段でお申込みの場合、当社が予約の承諾の旨を通知した翌日から起算して3日以内に申込書の提出と申込金の支払いをして頂きます。旅行契約は、当社が契約の締結を承諾し、申込金を受領したときに成立いたします。

■申込金 旅行代金が30万円以上 5万円
(お1人様) 旅行代金が15万円以上30万円未満 3万円
旅行代金が15万円未満 2万円

■旅行代金のお支払い:旅行代金は旅行開始日の前日から起算してさかのぼって21日目にあたる日より前にお申込みが間際の場合は当社が指定する期日までにお支払い下さい。

■取消料:旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除されるときは、下表の取消料を申し受けます。

契約解除日	取消料
旅行開始日の前日から起算して さかのぼって	40日～31日目 (ピーク時のみ) 旅行代金の10%
30日～3日目	旅行代金の20%
旅行開始前日～当日	旅行代金の50%
無連絡不参加、旅行開始後の解除	旅行代金の100%

ピーク時は12月20日から1月7日まで、4月27日から5月6日まで、及び7月20日から8月31日までをいいます。

■旅行代金に含まれるもの(一部例示。いずれも旅行日程に明示されたものに限り) ●航空、船舶、鉄道等運送機関の運賃(この運賃・料金には運送機関の課す付加運賃・料金を含みません) ●ホテルの宿泊費用 ●食事代金 ●航空機による手荷物の運搬料金 ●ツアーリーダー同行費用 *これらの費用は、お客様の都合により一部利用されなくても払い戻しいたしません。

■旅行代金に含まれないもの:前項のほかに旅行代金に含まれません。その一部を例示します。 ●超過手荷物料金 ●クリーニング代、電話料、ホテルのボーイ・メイド等に対する心付け、その他の追加飲食等個人的性質の諸費用及びそれに伴う税・サービス料金 ●渡航手続関係諸費用 ●オプションツアー料金 ●運送機関が課す付加運賃・料金(例:燃油サーチャージ) ●国内・海外の空港施設使用料 ●日本国内における自宅から発着空港等集合・解散地点までの交通・宿泊費

■特別補償:当社は、当社又は当社が手配を代行させた者の故意又は過失の有無にかかわらず、募集型企画旅行約款別紙、特別補償規程に基づき、お客様が募集型企画旅行参加中に急激かつ偶然な外来の事故により、その身体、生命又は手荷物上に被った一定の損害について、予め当社約款特別補償規程に定める全額の範囲において、補償金又は見舞金を支払います。

■旅行条件・旅行代金の基準:この旅行条件は2025年8月1日を基準としています。また、この旅行代金は2025年8月1日現在の有効なものとして公示されている運賃・規則、または、2025年8月1日現在認可申請中の航空運賃・適用規則を基準として算出しています。

■その他:(1)旅行代金は特に記載のない限りおひとり分を表示しています。(2)当社はいかなる場合も旅行の再実施はいたしません。(3)当社所定の申込書にお客様のローマ字氏名をご記入される際には、ご旅行に使用されるパスポートに記載されている通りにご記入ください。お客様の氏名が誤って記入された場合は、航空券の発行替え、関係する機関への氏名訂正などが必要になります。この場合、当社は、お客様の交替の場合に準じ交替手数料をいただきます。尚、運送・宿泊機関の事情により、氏名の訂正が認められず、旅行契約を解除いただく場合もあります。この場合には当社所定の取消料を頂きます。渡航先(国、または地域)によって外務省より危険情報などの安全関係の海外渡航関連情報が出されている場合があります。海外渡航関連情報は、外務省海外安全相談センターなどでもご確認ください。

FAXサービス 0570-023300

URL <http://www.anzen.mofa.go.jp>

渡航先の衛生状況については、厚生労働省「海外渡航者のための感染症情報」ホームページでご確認ください。

URL <http://www.forlh.go.jp/>

総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に際し担当者からの説明に不明な点があれば、ご遠慮なく下記に示す旅行業務取扱管理者にお尋ね下さい。

総合旅行業務取扱管理者 近藤謙司

お問い合わせ・お申込みは...

株式会社 アドベンチャーガイド

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-9-6 東西館ビル本館43号室

営業時間 月～金 11:00-17:00 / 土・日・祝 休み

総合旅行業取扱管理者 近藤謙司

観光庁長官登録旅行業第1713号 (社)日本旅行業協会(JATA)正会員



TEL : 03-5215-2155

FAX : 03-3288-3211

<http://www.adventure-guides.co.jp>

e-mail info@adventure-guides.co.jp